

私の趣味「ファゴット」

江別医師会
スウェーデンヒルズ耳鼻咽喉科

ひがしやま かすみ
東山 佳澄

はじめまして、令和4年12月より石狩郡当別町でスウェーデンヒルズ耳鼻咽喉科を開業しました、東山と申します。

平成6年に高知医科大学（現高知大学）を卒業後、高知県内の病院で勤務、平成16年より横浜で東山耳鼻咽喉科医院を継承、このたび当別町の大自然とスウェーデンヒルズに惚れて移住を決心した次第です。

私の「マイ・ホビー」は、ゴルフの他、ファゴットを演奏することです。ファゴットはご存じでない方もいらっしゃると思いますが、オーケストラでは必須の楽器になります。「ファゴット」はドイツ語で「薪の束」という意味から来ており、全長2.6mにもなる1本の長い管を途中で折りたたみ、2本の管を束ねた姿（写真1）で演奏します。客席から見ると煙突のようにも見えるようです（写真2）。歴史は大変古く、16世紀ごろにその前身の「ドゥルシアン」が用いられていたそうで、19世紀頃にはドイツ式「ファゴット」とフランス式「バソーン」に分かれて以降それぞれが活躍しています。ファゴットやバソーンが主役となる協奏曲も多く作られており、現在でも演奏会で取り上げられることもあるので、ぜひ暖かい音色に触れていただければ嬉しいです。

ファゴットはオーケストラの中では主に木管の低音部を担っており「縁の下の力持ち」的な役割を持っています。普段は他の楽器の演奏をもり立ててあげることが多いのですが、いざ主旋律やソロの部分になると、全身全霊ぶつけてゆくという頑張り屋さんでもあり、奏者は普段の私生活や職場での役割を含め、そういう性格になってゆく方が多いようです。

ファゴットの音の出る部分はリードといって、葦（あし）の茎の部分を丸めて先端を薄くしたものを2枚重ねて制作するのですが、このリードのできの善し悪しが音色や演奏のしやすさに大変影響するため、アマチュア演奏者の場合、自分の好みに合った市販のリードを探し回ることになります。手先の器用な人は自分で材料を購入して作るのですが、私も手術を含め、そういう手作業が大好きで今までに数え切れないくらいリードを自作してきました。しかしこれが大変奥の深い作業で、自分の師事している先生に自作リードを試していただくたびに「リードを作る時間があつたらそれを練習時間に充てなさい」とダメ出しをされ笑われることも多々・・・

横浜にいたときはいくつか市民オーケストラに所

属して毎週のように楽器の演奏をして楽しんでいましたが、こちらに移住してからは開業の準備などに追われ、残念ながらオーケストラ活動ができておりません。今後は小さな編成のアンサンブルへの参加から少しずつ演奏の場を見つけてゆければと考えております。北海道医師会には楽器演奏をされる先生も多くいらっしゃると思うので、もしファゴットと演奏がしたい、ファゴットが足りないという場面がございましたら、ご連絡をいただければ嬉しいです。

50半ばにして新天地を新しい地元として、地域の方々のために頑張っている所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



写真1（本人（右））



写真2